

# 名城病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年12月 策定

## 【名城病院の基本情報】

### ◆医療機関名

国家公務員共済組合連合会 名城病院

### ◆開設主体

国家公務員共済組合連合会

### ◆所在地

名古屋市中区三の丸1-3-1

### ◆許可病床数 : 326床

(病床の種別)

一般病床 : 279床

療養病床 : 47床

(病床機能別)

高度急性期 : 6床

急性期 : 273床

回復期 : 47床

### ◆稼働病床数 : 同上

(病床の種別)

(病床機能別)

### ◆診療科目

内科・神経内科・循環器内科・小児科(小児循環器科)・外科・整形外科・脳神経外科・  
心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・眼科・放射線科・麻酔科・歯科口腔外科

### ◆職員数 : 535人

・医師 : 63人

・看護職員 : 337人

・専門職 : 76人

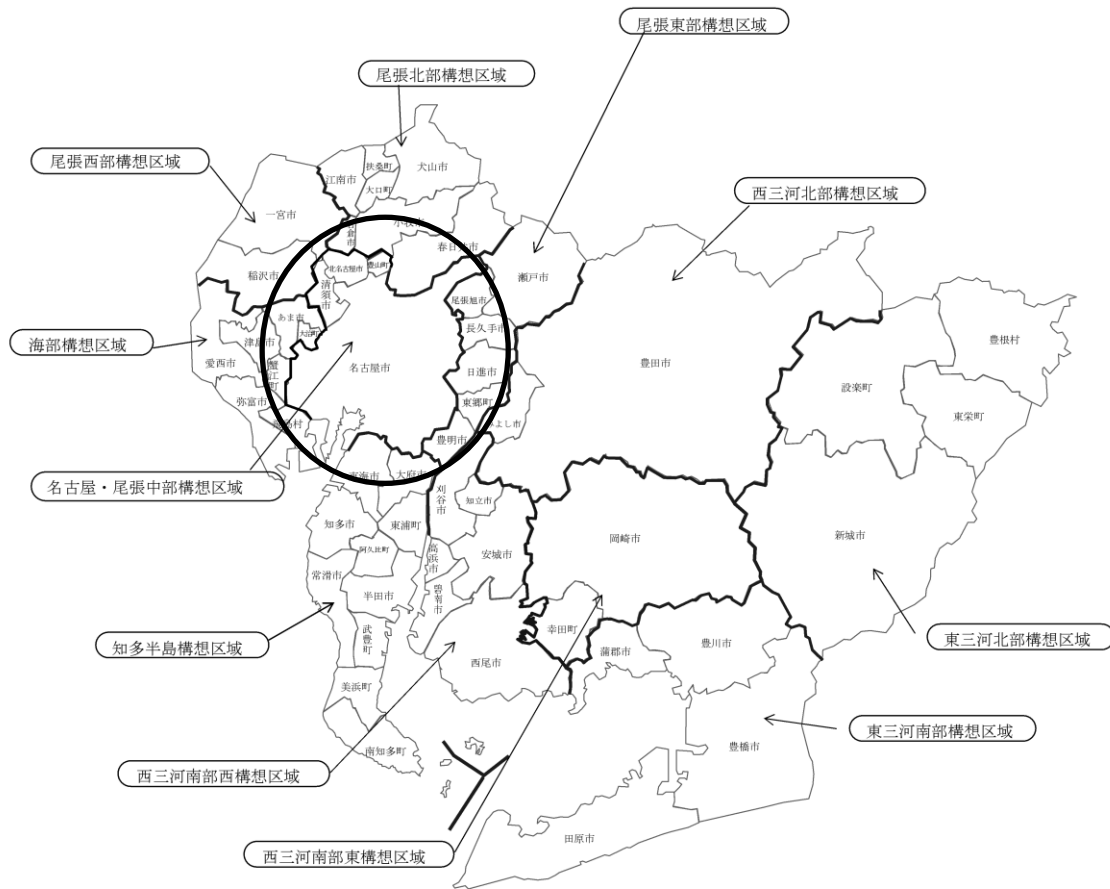
・事務職員 : 59人

# 1. [現状と課題]

## ①構想区域の現状

### [当院が位置する構想区域]

名古屋・尾張中部構想区域（名古屋市、清須市、北名古屋市、豊山町）



◆地域の人口及び高齢化の推移

○総人口は県全体と同様の推移で減少する。

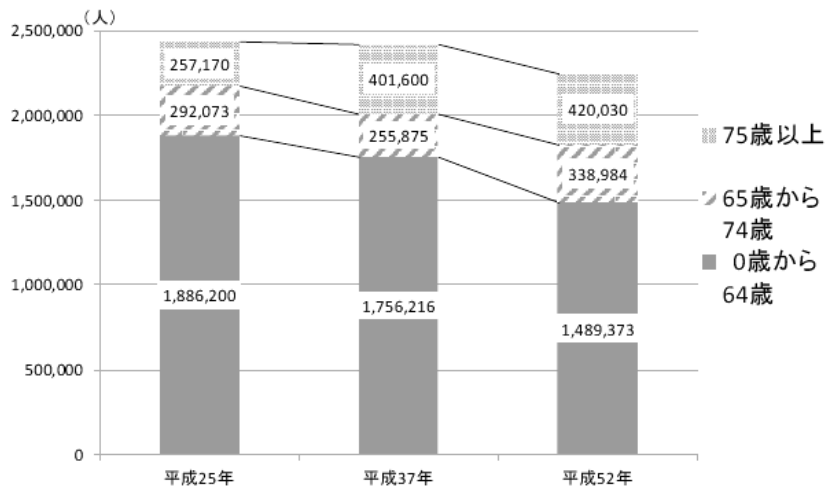
65歳以上は増加し、県全体より増加率は高くなっていく。

<人口の推移>

※（ ）は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)

<名古屋・尾張中部構想区域>



◆医療資源等の状況

○病院数が多く、大学病院が2病院、救命救急センター6ヶ所整備されている。

人口10万人に対する、病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富である。

○DPC調査結果（DPC 調査参加施設：24 病院）によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害）及び高齢者の発生頻度が高い疾患（成人肺炎・大腿骨骨折）の入院実績がある。病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多く、圏域内の急性期入院機能が充実している。

○消防庁データに基づく救急搬送所要時間は県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷）の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に、大きな問題は見られない。

○高度な集中治療が行われる特定入院料の病床は、平成28年3月現在、圏域内（18病院）において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料（ICU）・新生児特定集中治療室管理料（NICU）・総合周産期特定集中治療室管理料（MFICU）・ハイケアユニット入院医療管理料（HCU）・新生児治療回復室入院医療管理料（GCU）の届出がされている。

○平成25年度（2013年度）NDBデータ（レセプト情報・特定健診等情報データベース）に基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にあるが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料（SCU）については尾張東部医療圏へ患者の流出がある。尾張中部医療圏の自域依存率は0%であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出している。

### <医療資源等の状況>

区 分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区 分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積(k㎡)	5,169.83	368.34	—

◆入院患者受療動向

[名古屋医療圏]

○入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が9割程度と非常に高い水準にある。

また、他の二次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられる。

<平成 25 年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地														合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239
		88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325
		88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%
慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743	
	79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%	

<平成 25 年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地														合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
		79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%
慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
	84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

**[尾張中部医療圏]**

○入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出している。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入している。

**<平成 25 年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>**

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張中部医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.5%	—	—	—	—	27.5%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	—	30.7%	—	6.0%	17.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	288
		38.9%	—	38.5%	—	6.6%	16.0%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162
		20.4%	—	64.2%	—	—	15.4%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%

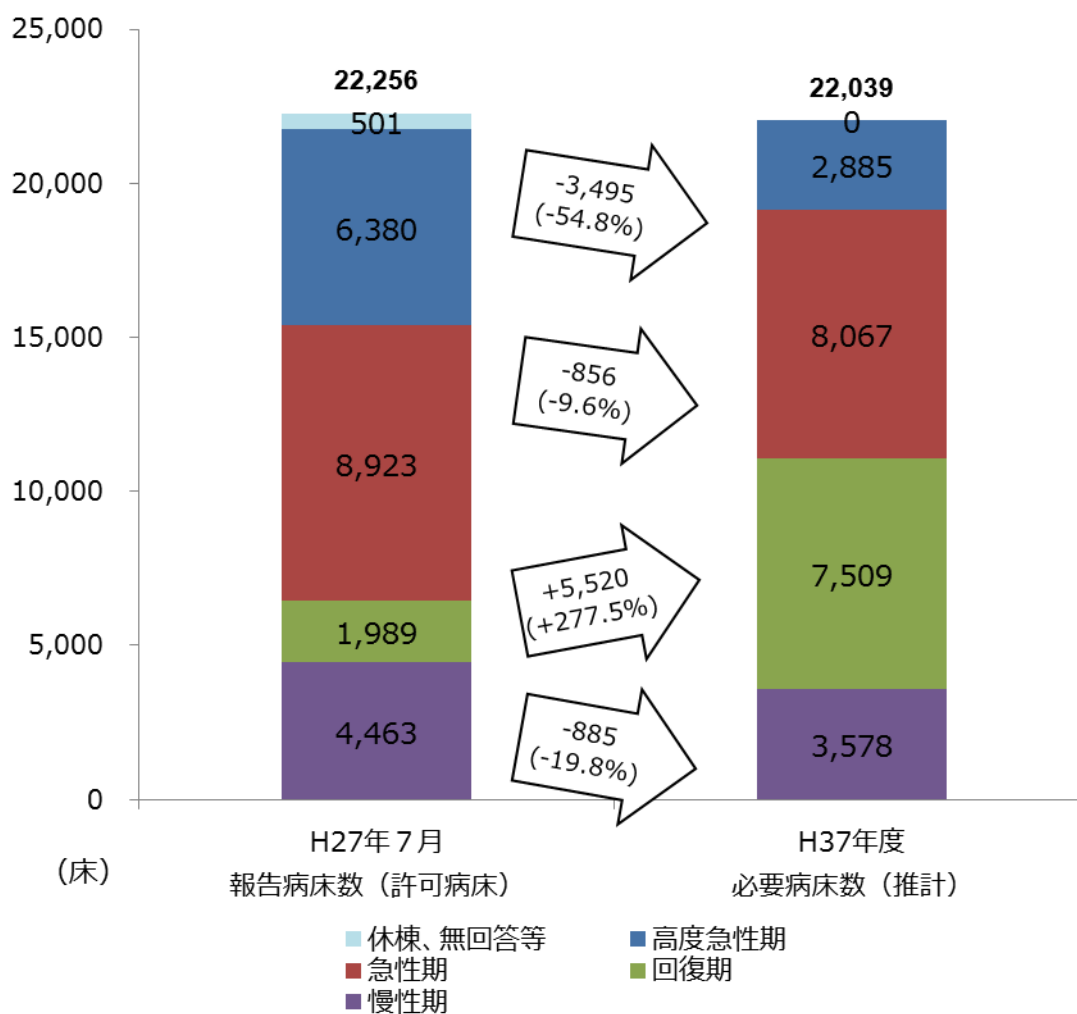
**<平成 25 年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向>**

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	—	83.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	*	*	*	175
		14.9%	6.9%	63.4%	—	14.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	0	*	289
		41.2%	7.3%	36.0%	—	10.4%	5.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%

◆地域医療構想における機能別必要病床数

愛知県医療構想において、名古屋・尾張中部構想区域の平成 27 年度の報告病床数と平成 37 年度の必要病床数を比較すると、平成 37 年度必要数は平成 27 年度病床数より全体で 217 床減少し、病床別では、回復期が 5,520 床 (+277.5%) 増加する見込みである。一方で、高度急性期は 3,495 床 (-54.8%)、急性期は 856 床 (-9.6%)、慢性期は 885 床 (-19.8%) 減少する見込みとなっている。



◆名古屋医療圏の主要医療機関の病床機能報告状況

名古屋医療圏の主要医療機関の病床機能報告状況は、将来過剰となる高度急性期・急性期機能の病床数増加を報告している病院が複数見られる。

◆名古屋医療圏の将来推計患者数の予測（入院患者）

名古屋医療圏の将来推計患者数の予測（入院患者）は、妊娠・周産期系疾患を除き、いずれの疾患も増加が見込まれる。循環器系、精神系、新生物は、特に入院患者数が増える見込まれる。



◆**診断群（MDC）別患者流出入**

名古屋医療圏の診断群（MDC）別患者は、合計で16.1%が他医療圏から流入している。  
疾患別では、筋骨格系、血液系、乳房系等流入率が高い。  
一方、精神疾患のみ他医療圏へ流出している。

②**構想区域の課題**

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6ヶ所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要がある。
- 回復期機能の病床を確保する必要がある。

### ③自施設の現状

#### ◆当院の診療機能

##### ・高度急性期機能

高度急性期病床機能としてICU6床を有している。

##### ・急性期機能

急性期機能として、7対1入院基本料届出病床273床を有している。

##### ・回復期機能

回復期機能として地域包括ケア病床47床を有している。

##### ・循環器センター

三次救急に匹敵する「循環器センター」として診療を担い、虚血性心疾患（急性心筋梗塞や狭心症）・心不全・不整脈・肺塞栓症・急性大動脈解離などのあらゆる救急循環器疾患に対応している。

また、胸部心臓血管外科と密に連携し24時間体制で対応しており、来院から30分以内に緊急心臓カテーテル検査が受けられる体制を整備している。

##### ・脊椎・脊髄センター

整形外科に「脊椎・脊髄センター」を設置し、側弯症のペプター手術を行う国内有数の治療拠点として、全国から訪れる患者の治療に当たっている。

##### ・地域医療支援病院

地域を支える中核病院として、2015年9月より地域医療支援病院の承認を受けている。

##### ・救急告示・二次救急病院

救急告示・二次救急病院として、病院群輪番病院の役割を果たしている。

##### ・名古屋市中区在宅医療・介護連携支援センター

院内に開設された「名古屋市中区在宅医療・介護連携支援センター」との連携強化を図りながら、名古屋市中区の地域包括ケア構想における後方支援病院としての役割を果たしている。

##### ・EMIS（広域災害・救急医療情報システム）への参加

EMIS指定医療機関として、広域災害・医療情報システムに参加している。

#### ◆名古屋医療圏における当院の診断群(MDC)別シェア率(ポジショニング)

##### ・入院件数

当院のMDC別シェア率は、合計では2.1%であり、二次医療圏のDPC病床数に占める当院のDPC病床数の割合2.4%を下回っている。

疾患別では、循環器系(4.1%)、筋骨系(10.0%)、精神系(5.7%)等のシェア率が高い。

##### ・入院件数シェア率(手術あり)

手術ありの合計シェア率は1.7%で、DPC病床割合を下回っている。

疾患別では、循環器系(2.8%)、筋骨系(7.0%)のシェア率が高い。

##### ・入院件数シェア率(手術なし)

手術なしの合計シェア率は2.4%で、DPC病床割合と同等である。

疾患別では、循環器系(5.4%)、筋骨系(13.4%)、精神系(5.7%)のシェア率が高い。

##### ・部位別がんシェア率

当院のMDC別シェア率は、合計では0.6%であり、DPC病床割合を下回っている。

##### ・救急車搬送あり退院患者数シェア率

当院のMDC別「救急車搬送あり退院患者数」シェア率は、合計で2.3%であり、DPC病床割合を下回っている。疾患別では、循環器系(3.8%)、消化器系(3.4%)、腎尿路系(4.6%)、小児系(3.7%)、精神系(23.9%)等のシェア率が高い。

#### ④自施設の課題

- ・ **名古屋医療圏における診断群（MDC）別シェア率（ポジショニング）**

名古屋医療圏における診断群（MDC）別シェア率では、「入院件数・部位別ガン患者数・救急車搬送あり退院患者数」ともに、二次医療圏におけるDPC病床数に占める当院のDPC病床数割合を下回っており、患者増加に向けた更なる対策を講じる必要がある。

- ・ **地域における役割**

名古屋・尾張中部医療圏は巨大な大都市圏で、三次救急・二次救急を担う500床以上の大規模病院が多く、激しい競争環境にある為、地域医療に貢献する中規模病院としての立ち位置を明確にし、地域における当院の役割強化をすすめる必要がある。

## 【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

### ①地域において今後担うべき役割

当院が、地域において今後担うべき役割は、現状と課題を踏まえたポジショニングから見ると、主に次の点である。

#### ・地域医療支援病院としての役割

地域医療に貢献する中核病院として、地域における医療機関との更なる連携強化を図る。  
(病診・病病連携)

#### ・地域における救急医療体制を支える役割

救急告示・二次救急病院として、更なる救急応需体制の強化を図り、地域における救急医療体制を支える病院としての役割を果たす。

#### ・回復期機能（地域包括ケア病棟）を有する急性期病院としての役割

回復期機能（地域包括ケア病棟）を持つ急性期病院として、近隣の急性期病院とさらなる病病連携を図り、超急性期または急性期医療を受けた後の患者の受け皿としての役割を強化する。

#### ・名古屋市中区地域包括ケア構想を支える後方支援病院としての役割

名古屋市中区における地域包括ケア構想を支える後方支援病院として、アセスメント・レスパイト入院患者等の受入れ支援をすすめる。

### ②今後持つべき病床機能

- ・当院は、2015年5月に療養病棟（慢性期機能）47床を地域包括ケア病棟（回復期機能）に転換するとともに、2017年4月に産科を廃止し5階病棟（急性期機能）38床を返上した。この方向性は、今後、名古屋・尾張中部医療圏の地域医療構想において求められる病床機能に則していることから、引き続きこの病床機能の維持をすすめていく。

### ③その他見直すべき点

医療機関全体として、病床利用率が低下傾向にある為、2017年4月に閉鎖した5階病棟の機能転換を図り、当院の目指す診療機能の更なる強化をすすめる。

- ・内視鏡センターの拡張による消化器疾患患者受け入れ強化
- ・第二リハビリテーション室の設置によるリハビリテーション体制強化
- ・総合健診センター拡張による健診受け入れ体制強化
- ・救急外来拡張による救急患者受け入れ体制強化
- ・入退院支援センター設置による、病病・病診連携強化。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	6	→	6
急性期	273		273
回復期	47		47
慢性期			
(合計)	326		326

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○5階病棟機能転換 ・内視鏡センター ・第二リハビリ室 ・総合健診センター 設置	○工事着工、年度内稼働予定	
2018年度	○救急外来拡張・入退院支援センター設置	○工事着工、年度内稼働予定	
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床稼働率 : 75.0%</li> <li>・ 紹介率 : 80.0%</li> <li>・ 逆紹介率 : 50.0%</li> </ul> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費率 : 50%未満</li> </ul>
--

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】  
(自由記載)

--